

令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立つつじが丘小学校長 村岡 智行

学校教育目標		学ぶことを楽しみ、人とつながって生きるつつじっ子の育成			
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上部を設置			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆文章全体の構成や展開を考えたり、条件に沿って自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりするなど「書くこと」の領域で、全国平均よりも下回っており、課題がある。(経年) ○資料を用いた目的を理解する段階では、全国平均を5ポイント、目的や意図に応じ資料を使って話す段階でも全国平均を10ポイント上回っており、良好な結果と言える。 ○「読むこと」は、全国平均を5ポイント上回っている。 ◆文中における主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を捉えたり、漢字を正しく使ったりする段階では、全国平均を下回り、言語の特徴や使い方に課題がある。(経年) 		
		算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」「測定」「変化と関係」の領域においては、全国平均とほぼ同程度であった。「条件に合う時刻を求める」「速さと道のりを基に、時間を求める」段階では、正答率が9割程度とよく理解できている。 ◆選択式や短答式の正答率と比べると、記述式の正答率が低い。自分の考えを表現し、言葉を選択的に用いて筋立てて説明することに課題がある。(経年) ◆基準量や比較量を明確に捉えたり、除法の式と商の意味を理解したりすることに課題がある。(経年) ○質問「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できているか考えますか」の肯定的評価は77.7%で、全国平均を3.3%上回っている。 ◆質問「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の肯定的評価は、全国平均を下回っており、粘り強く取り組むことに課題がある。(経年) 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆漢字の読みかえ、使い方に課題があり、音に当てはめた文字を書く傾向がある。(経年) ◆各教科の単元テストでも、記述式で回答する段階において、学年が上がるにつれて撤回回数の児童が増える。 			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組み、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとする意欲を高めている ◆学習内容を関連付けて考える意識が弱い児童がいるため、学年と学年の学習内容のつながりや単元間との関連性を意識付けていくことで、児童に見通しを持たせながら学習に臨ませる。 ◆タブレットを用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめることで、基礎基本の定着を図る。 ◆文字を丁寧に書くことや定規の使い方、机上の学習用具の置き方、鉛筆の持ち方、学習姿勢など、学習規律・授業規律の定着を図っている。 ◆あいさつや返事をはじめ、自分の思いを伝える力や主語と述語をはっきりさせて正しく伝える力をつけることが必要である。 ◆自分で課題を立てて情報を集め、それを整理して、調べたことを発表するという学習経験が不足している。 			
慣学・力生向上に活学習に関係する学力向上部による児童・生徒の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「学校の学習時間以外、一日どれだけの時間、勉強をしますか」の項目では、平日では65%、土日は71%が「1時間未満」の項目に「あてはまる」と答えており、自主的に計画を立てて学習する習慣がつかない児童が多いと考える。 ◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という項目についても、「あてはまる」は半数近くと割合が低く、全国平均を下回っている。 ○「学校で他の友達と意見交換したり、調べたりするためにICT機器を使用している」の項目では、68%が肯定的に答えており、全国平均を30ポイント近く上回っている。 	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の保護者アンケートでは、「進んで家庭学習をしている」の肯定的評価が75%と前年度の69%より増加しており、良い傾向が見られた。 ◆夜遅くまで、オンラインゲームやSNS・LINEなどに依存し、長時間に及ぶなど、家庭でルールが守られていない傾向がある。 	
	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究においては「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、主体的・対話的な学びを大切に授業を大きく推進している。 ◆全国学力・学習状況調査結果の状況をふまえて、基礎基本の徹底・活用能力の育成・表現力の向上・問題解決に対する意欲の向上などについて更なる研究が必要である。 ◆タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を 	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進委員会を中心に学力向上部、環境部を設置し、授業、学習環境等、子どもたちの学力向上への方策について研究を深めると共に、外部講師を招き、授業実践についての研修を進めている。 	
家庭・携種間連携	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生での田植え、2年生での町探検、1年生での春遊びなど貴重な体験をさせて貰っており、地域が非常に協力的である。 ○新年生の下校の見守りや配膳ボランティア、ミシンボランティア、図書ボランティアなど、地域人材を活用している。 	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○生活指導・人権学習・英語学習などの観点から、中学校区で校種を超えて、授業を互いに参観し合い交流することを通して、児童の理解を深めている。 	
	4月				
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な半立て等)	2～3月 年度末評価	
				(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
○読書活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> ○読書をする時間を昨年より増やす。(1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%) ○読書通帳で100冊達成する児童を昨年度より増やす。(昨年度達成者41名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しむ機会を増やす。 ・学校司書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館借りの発行などを通して読書の楽しさを伝える。 ・「読書通帳」を活用して読書の質・量とともに増やし、数多く読書した児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。 ・図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする 		
○文章を書く力の伸長		<ul style="list-style-type: none"> ○学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。 ○算数の思考過程を記述する問題の平均正答率が全国平均をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から日記や描写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 ・「分らない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多く作り、辞書を使う習慣をつける。 ・設定された字数や目的に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 ・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際には、図表を効果的に活用できるように指導する。 		
○算数科を中心に「タイが生まれる楽しい授業」のテーマに沿って思考力を高める授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ○校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。 ・教育環境整備やつつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。 ・「わかる」「覚える」「深める」「ふり返る」の授業の流れの可視化を図る。 ・課題提示の仕方を工夫し、児童からめあてを引き出すことで主体的な問題解決につなげる。 ・自分の考えを工夫してまとめたノートを「いいねノート」として掲示する。ノートコンテストを行い、相互評価の場を持つことを通して、学習意欲を高める。 ・タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。 ・モバイル端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理などを学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。 		
○学習規律・授業規律の定着と学習環境の整備		<ul style="list-style-type: none"> ○聴き合い学び合うクラス作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。 ・学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。 ・「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」、「体を止めて聴く」、「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 ・中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。 ・がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなぐ。 		
○児童の家庭等での学習習慣の確立		<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートで「進んで家庭学習をしている」の肯定的評価を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習を家庭学習に取り入れる。 ・生活アンケートの結果から、ゲーム等に費やす時間や一日の過ごし方について、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、より良い取り扱い方を継続して啓発していく。 ・保護者の協力を得ながら、読書や家の仕事、運動についても意識して取り組めるように啓発する。 ・児童が問題を解決に行えるように、学習カードを活用し、児童・保護者・担任間で日々の学習の振り返りができるようにする。 		
○漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上		<ul style="list-style-type: none"> ○漢字のまとめのテストを繰り返し行って、正答率90%以上を目指す。 ○計算検定において90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習における反復練習により、習得内容の定着を図る。 ・宿題による復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。 ・放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の一層の定着を図る。 ・タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめる、履修を済すことで、基礎基本の定着を図っていく。 ・担任・教科担任・兵庫型学習システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、個に応じた指導の充実をさらに図っていく。 		